6. 土木費

・「やんちゃし放題の公園」について

＜要旨＞

子どもが伸び伸びと遊び、発想力が刺激されるような新しい形の公園づくりを。都心では見ることの少ない「プレーパーク」を充実させるべき。

＜本文＞

　地域の大人みんなが見守りつつも、子供が活き活きと遊ぶことができる「プレーパーク」の可能性について質問致します。

　最近、外で遊ぶ子供が以前よりも減少しているそうです。遊びは子どもの心身の成長に欠かせないものであり、日本も批准している国連「子どもの権利条約」にも、児童は遊びのための十分な機会が与えられる権利を有している旨が述べられ、その重要性が記されています。　私が小さい頃は朝から晩まで公園にいて泥んこになって遊んだものでした。そこで普段会わない子どもや地域の大人と交流して、知らぬうちに「社会性」を学んだのだと思います。それがだんだんゲームにと代わられて、良いこと、悪いことありますが、少なくとも地域とのかかわり、社会性については、それを得るための一つの可能性がなくなってしまったのではないかと考えます。

　そこで私は、子どもたちの遊び場問題の打開策として「プレーパーク」を挙げたいと思います。プレーパークの理念は、「子供たちが自分の責任で自由に遊ぶ」というものであり、成長を促す有意義な場です。ここには、施設の形態で遊び方が規定されているものと違い、自然の物や用途が１つに限られない用具があります。子どもの空想や創造性を刺激し、遊び仲間の集団形成にも役立ちます。

　もちろん、大人に制限されないため、子供たちは伸び伸び遊ぶことができますが、全てを彼らにゆだね放置するのは、時に事故に繋がり危険でもあります。そのため、子供たちに助言や忠告を与える存在が必要となります。地域の方やお年寄り、大学生などを上手く巻き込み、地域一帯となって子供たちの成長を見守ることができるプレーパークが理想だと思います。渋谷区代々木小公園内の「はるのおがわプレーパーク」では、子供たちがそこにあるものを使用し、工夫して遊びを作り出せる遊び場となっており、NPOの方が週6日、遊びのサポートをしています。遊具は賛同する地域によって寄付されるなど、街に溶け込んでいます。家でゲームばかりしていた子どもが積極的に来園するなど、効果は大きいようです。

　港区でも、2010年8月に「白金台どんぐり児童公園」にてプレーパークが試験的に実施されたと聞いています。まずは、その評価についてお答えください。

　私は、公園の魅力の魅力を高めるためこうした取り組みをさらに充実し、できれば近い将来、常設での本格実施をするべきだと考えておりますが、次にプレーパークの今後の展開とその実施主体、検討課題について答弁をお願い致します。

　成功のポイントとなるのは、町会などこの【やんちゃし放題の公園】を支える地域組織との連携だと考えます。他の実施事例では、町会や地域のNPOなどの全面協力があり、「子どもをみんなで育てよう」というまとまった意思統一があった時に初めて上手くいくようです。仕組みが先か、住民の発意が先かの議論ではなく、新しいことですのでまずは始めてみて、そこから軌道修正するべきだというのが私の意見ですが、住民意識やNPOなどの参加を得るために、区としてどのような方策をとる予定があるのか、お答えください。